

小松島商工会議所 商業・サービス合同部会 議事録

日時：令和8年1月14日（水） 午後4時30分から

場所： 小松島商工会議所 会議室

出席者：商業部（3名）、サービス部（2名）、事務局（2名）、その他（2名）

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

○現状の経済状況と経営課題

- ・最低賃金の引き上げへの懸念：徳島県の最低賃金が1,046円に引き上げられることに対し、特に農業などの価格転嫁が難しい業種でのコスト増が深刻視されている
- ・二極化の進行：大企業がITやAIの導入で人件費を抑制する一方で、地方は雇用の確保を前提としているため、賃金上昇への対応が限界に達しつつある
- ・インフレの影響：工場の建設費が以前の2倍（坪60万から120万）に高騰するなど、社会人になって初めて経験するインフレ基調への対応が求められている
- ・事業承継の危機：多くの経営者が高齢化し、「機械が壊れたら廃業する」等という状況にあり、10年後には事業者が半減しかねないという強い危機感が共有された

○「悉皆（しっかり）調査」の実施提案

- ・実態把握の必要性：想像ではなくエビデンス（数字）に基づいて行政や議会へ予算配分の要望を行うため、市内全事業者の調査を行うべきだと提案された
- ・詳細なマネジメントデータ：単なるアンケートではなく、経営者の年齢、後継者の有無、家族構成、従業員の市内・外別人数、敷地の空きスペースなど、詳細な項目の調査を目指してはどうか
- ・アナログな手法の活用：知り合いを辿って直接訪問することで、商工会議所が把握できていない小規模な事業者とも繋がりを作る
- ・行政へのプレゼン：調査結果から「どの分野にテコ入れすれば費用対効果が高いか」を明確にし、行政が予算を組みやすいストーリーを提示することを目指す

○他市の事例と戦略的視点

- ・鳴門市の成功事例：「くるくるなると」の成功を引き合いに出し、バックキャスティング（逆算思考）による価値創造と、市長が命を懸けるほどの「本気の勝負」が経済活性化には不可欠であると議論された
- ・阿南市との連携：阿南市が進めている悉皆調査の手法を学ぶため、阿南市の担当者や阿南商工会議所副会頭を招いて勉強会を行う案が出された

○外部人材の活用

- ・地域おこし協力隊の参加：新しく着任した協力隊メンバーを次回の会議から招き、外部の視点を取り入れるとともに、地域との摩擦を防ぐコミュニケーションの場とすることが提案された

○今後のアクションプラン

- ・調査票の作成： 次回の会合までに、悉皆調査のためのアンケート案を作成し、メンバーで内容をブラッシュアップする
- ・阿南商工会議所との合同部会： 2月か3月頃に、阿南側と調整する
- ・活動の検証： 昨年度からの10年計画がどこまで進捗しているかを検証し、具体的な単年度計画に落とし込む作業を進める

4. その他

次回の予定 令和8年2月6日(金)、3月11日(水) 16時30分～